

コンセプトペーパー

武内 和彦

持続可能社会のための科学と技術に関する国際会議 2014 組織委員長
国連大学上級副学長

テーマ「地球持続性に向けた学術の統合と人材育成」

(Transdisciplinarity for Global Sustainability: Strategies for Research and Capacity Building)

人為的気候変動や生物多様性の減少など、人間活動がもたらす地球規模の環境変動に適切に対処していくことは、世界各国が協調して取り組むべき今世紀最大の課題の一つである。世界の学術界を代表する国際科学会議(ICSU)や国際社会科学協議会(ISSC)などが今後10年をかけて推進しようとするフューチャー・アース(Future Earth)と呼ばれる国際的研究イニシアティブは、そうした地球的課題の解決と持続可能な未来の構築に向けて統合的・学際的に取り組もうとする野心的な挑戦である。

フューチャー・アースを地球的課題の解決に結びつけて行くためには、自然科学および人文社会科学をまたがる学術間の俯瞰的体系化・統合とともに、科学-政策-社会インターフェイス(science-policy-society interface)を構築し、研究成果を地球的課題の解決につなげるための、超学際的(transdisciplinary)なアプローチが重要であると言われている。しかし、学術の細分化が進むなか、超学際的アプローチをいかに実行可能なものとし、またその推進の原動力となるさまざまなレベルの教育と、若手研究者などの人材育成のあり方について、明確な方針が得られている訳ではない。

一方、日本学術会議は、日本国内のこの分野に関連したさまざまな研究機関や、日本に本部をもつ国連大学とともに、国際的に推進されるフューチャー・アースの取り組みを積極的に支援するとともに、分散型事務局の一翼を担うなど、この取り組みをリードして行きたいと考えている。また、本年は、国連持続可能な開発のための教育の10年(DESDE)の最終年にあたり、11月にはESDユネスコ世界会議が名古屋で開催され、持続可能な開発のための教育(ESD)を一層発展させるための方策が議論される。

本シンポジウムでは、地球持続性(global sustainability)に関係する分野の第一線で活躍する国内外の研究者を招聘し、2つのセッションを設けて討議を進め、両セッションの成果を有機的に結びつけることで、超学際的立場からの学術の統合化と、超学際的思考を育てるための教育ならびに人材育成のありかたについて提言を行い、今後のフューチャー・アースの推進に大きく貢献することを目的とする。

セッション1では、地球持続性に向けた学術の統合をいかに実現していくか、またその際に自然科学および人文社会科学が統合化に果たす役割について論じる。同時に、政策決

定者など多様なステークホルダーと協働するための科学-政策-社会インターフェイスをいかに構築するかを論じる。セッション 2 では、初等中等および高等教育レベルでのサステナビリティ教育のあり方を論じるとともに、**ESD 推進のための地域拠点(RCE)**など、多様なステークホルダーの参画のあり方を論じる。最後に、学術の統合化をいかに教育と人材育成に結びつけていくか討議する。